

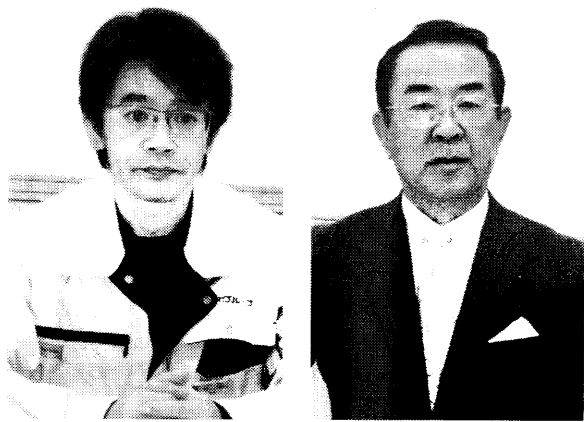
# 水なしLED-UVでB全印刷

アイカ(渡邊照雄社長、名古屋市中区)は、本社工場の四六全判1色機にクラフィックス・サービス・ジャパン(野尻泰生社長、千葉県柏市)のLED-UVシステム「イージックス」を搭載、B全ホスター印刷では世界初となる水なしLED-UV印刷を昨年6月から開始している。今回の導入について、渡邊照雄社長と後藤日出彦執行役員製造部三場長に本社工場で話を聞いた。

## ◆LED-UVの導入で現場改善を

導入にあたって渡邊社長はポイントとして「現場改善」と「人材育成」を挙げた。

「今の若い人たちに紙粉やパウダーにまみれた現場に勤務し続けてもらうのは難しい。そのためには清潔な明るい工場にする必要がある。また水なしLED-UVの導入によって、入社して半年ぐらいの若い社員がすぐにオペレータとして完成品を刷り上げることが自信がつき、早く一人前に



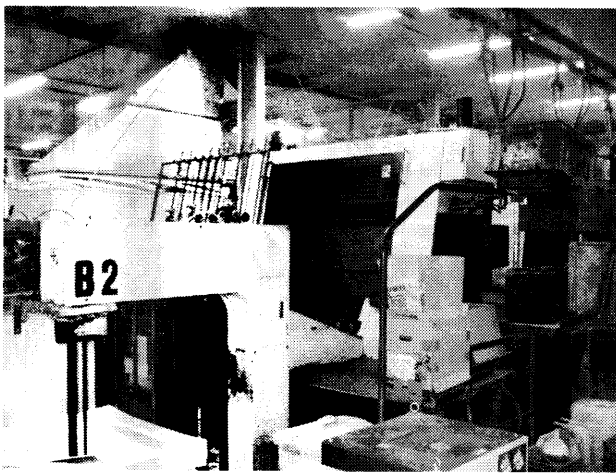
後藤工場長

渡邊社長

なれる」と現場での利点が多いことを指摘。また、品質についても

## アイカ、世界初の挑戦 製品にメリハリ

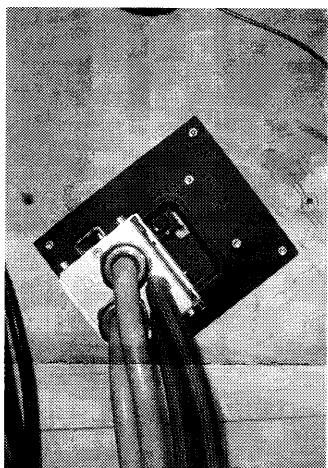
# 現場改善、人材育成にも効果



イージックスが設置された四六全判機

事」とのご評価をいただいている」と話した。さらに取付工事中の処置として、枚葉機と回転機とのオペレータを振り分けながら運用したこと、多能工化の推進もできた」と語った。

◆最初から「水なし」を選択  
導入に当たって一番苦しかったのは「インキ」という。中でも、いかに油性のインキに発色を近づけていくかが最大のポイントだった。



後付けLED-UVランプ

「印刷機におけるデリのトリプルはほぼゼロ。パウダーを掃除する時間もなく、仕事に注力できる時間が多くなったことで、品質が向上した」と後藤工場長は語る。また、製品にサラサラ感がないことは商品価値を高めることにもつながっている。

「初めての試みなので、何が良くて何が悪いのか。水で苦労をするならば、全く見えない状態だった。最初の3ヵ月ぐらいいは調整しながら、半月に一度インキを変えていくような状態(後藤工場長)。」

半年間の試行錯誤の末、ようやく現在のインキが完成し、「自信を持って送り出せるものになった」と(渡邊社長)。

「水なし」という点ではすでに回転機で水なしに取り組んでいたこともあり、後藤工場長は「先入してLED-UVを導入している会社に話を聞き、非常に水の扱いがデリケートになるが「水なし」はその心配がない」とは知っていた。また、この組合せなら間違いな

「水なし」と「LED-UV」の組合せは最適とU.V.の組合せは最適と言えらう。また、ランプに「LED」を選択したことについて、「UVランプの中で最も有力」と(後藤工場長)と考えたからだという。

さらに、「水の苦労を取り除く(渡邊社長)ことにより通常、ある程度の経験を要求される水の扱いも問題にならない。」

先に渡邊社長が語ったように「若い人がすぐに完成品を刷り上げることができる」のだ。

◆導入によりもたらされる数々の改善

「印刷機におけるデリのトリプルはほぼゼロ。パウダーを掃除する時間もなく、仕事に注力できる時間が多くなったことで、品質が向上した」と後藤工場長は語る。また、製品にサラサラ感がないことは商品価値を高めることにもつながっている。

一方、渡邊社長は「トリプルがなくなること、オペレータの負担が減った。明るい顔で仕事に取り組んでいる」と現場改善の成果を紹介する。

一般的に高いと考えられているインキや版材のコストも、パウダーが不要なこと、掃除の時間がなくなることを考えれば「コスト面での負担は少ない」と渡邊社長は明言。

最後に、「これからの少子化時代、若者を印刷会社に呼び込もうと考えるなら、工場環境を整え、半年ぐらいでカラー印刷ができる、というような達成感を与えてあげなければならぬ。そうしないと、若い人材を呼べないし、育たない。そう考えたならLED-UVシステムの導入は必然だろうと思う。導入を考えた会社さんがあれば、ぜひ、見学に来ていただきたい」と呼びかけた。